（C）日刊スポーツ新聞社

2014.7.23→2020.7.24

毎週水曜日連載
NIKKAN SPORTS SPECIAL

金トイレのおもてなし

ウィル・スミス驚愕 紙が必要ないぱっちり 水が当たる

マドンナ感激 温かい便座が懐かしかった

「おしりだって洗ってほしい」

◆温水洗浄便座の歴史◆ 前回東京五輪のあった64年、TOTOは米国で医療用として使用された「ウォッシュエアシート」を輸入し販売した。肛門（こうもん）科を中心に年間100台ほど売れたが、一般的に広まることはなかった。その後、TOTOは80年6月に「ウォシュレット」を発売。女優川島和江（おしりだって、洗ってほしい）のCMも話題を呼んだ。普及率はなかなか高まらなかったが、多機能化、節水化とともに90年代後半から急激に浸透。現在の一般家庭の普及率は76%まで高まっている。

明治時代 1868～1912年 耐久性のある陶器製の便器が使われ始める。教育者で同志社大を設立した新島襄（じょう）邸に日本最初の簡易式（洋式）トイレができる

大正時代 1912～1926年 陶器（現TOTO）も日本初の腰掛式水洗便器の製造開始

昭和～現代 1926～2015年 1927年に帝国議会議事堂（現国会議事堂）にも腰掛式水洗便器が採用される

鎌倉時代 1185～1333年 木製のくみ取り式便器が登場

江戸時代 1603～1868年 水戸光圀（みつくに）が隠居生活を送った茨城の西山荘に「黄門さまの腰掛け式水洗便器」があった。箱の底に杉の葉を敷き、尿のにおいと音を消した

平安時代 794～1185年 貴族の間で、おまる式の箱が使われ始める

縄文時代 紀元前17万3000年頃～紀元前3000年頃 水辺で排せつし、垂れ流し

弥生時代 紀元前300年頃～紀元後250年頃 川の流水のよこに「川屋」といわれる板をつけ、そこから用を足す

左は江戸時代のおまる。右は水戸光圀が使用した小便器

平安時代の貴族がつかっていた桶箱

弥生時代の川屋といわれたトイレ

←日本のトイレの歴史←

NIKKAN SPORTS
東京オリンピック特集

世界一のトイレが、最高の「おもてなし」！。日本は温水洗浄便座の普及率が75%を超えた。清潔で快適なトイレは日本の誇る文化になりつつある。20年東京五輪・パラリンピックでは、海外から選手団を含めて20万～40万人の観光客が来日する。だれもが1日数回はお世話になる必要不可欠な場所。日本の誇る「金メダルトイレ」は、来日する外国人への「おもてなし」の基盤になる。

20年東京五輪 来日40万人外国人寄っといれ～

課題 車いす使用者の「多機能トイレ」足りない

日本の玄関には、最先端のトイレがある。羽田空港国際線ターミナル。一般トイレは、通常のスペース1・2㍍×1・9㍍から1・2㍍×1・9㍍と拡大。ベビーカーを持った人、車いす利用者も使用可能になる。これらとは別に、車いすの人用の多機能トイレも併設する。

羽田空港国際線ターミナルの大型トイレ

この設計に関わったのが、東洋大の川内美彦教授（61＝写真奥）だ。1996年の米国アトランタ大会から、ボランティアとして、車いすの生活を続ける。当初、国内に車いす利用者用のトイレはほとんどなく、出掛けるときはいつも、「おしっこ、大丈夫？」と、家族に聞かれる日々だった。

利用者用のトイレはあっても、奥行が狭く、車いすが方向転換できない。新国立競技場の設計はインフォーマルな意見を聞いて、車いすの人用のトイレを、ゆったりとしたスペースを確保した。

体脂肪も尿酸値も大腸検査も

医学的面で活用できる能性を目にした。①便座に乗ることで体重、体脂肪率を測ることで尿酸値、尿糖値の測定②排尿時の尿検査値、尿検査などの機能の検査③大腸検査などの機能の追加をあげた。高橋会長は「ふん尿を肥料化する」「高機能オトイレ」の可能性も言及した。

「トイレは増えてはきたが、絶対量は足りていない。TOTOの歴史資料館の山谷幹夫シニアアドバイザー（69）は「日本人は絶妙に脱いで座り上がるなど、清潔な日本の文化が普及の原動力になった」と分析した。

海外に広める ニューアイデア◀

マニュアル作成計画

コンビニ全面開放

TOTO吉部副社長 **度使えば良さわかる**

5年後の東京五輪・パラリンピックには選手を含めて約20万～40万人の外国人が訪れる。昨年の外国人観光客は1300万人を突破したが、政府は5年までに2000万人を目標に掲げる。多くの外国人が温水洗浄便座を初体験する。TOTOは「観光客が来日する前に、『日本のトイレは便利だ』と伝えたい」と意気込む。

TOTO歴史資料館 山谷さん **清潔な文化 普及原動力**

ハリウッド俳優のウィル・スミスは、紙が必要ない、ぱっちりのようなところに水が当たり、乾かしてくれる」と驚く。歌手マドンナも「日本の温かい便座が懐かしい」と感激した。ともに来日時のトイレへの感想。日本には1度味わうと病みつきになる世界にぱっちりの「ウォシュレット」の最新式がある。トイレに入ると、人間は何もせずに近づくと感知器が反応し、便座が開き、便座の暖房も開始。用を足すと、ノズルから水が発射され、おしりを洗う。便座から立ち上がると、脱臭機能を働かせながら便器を洗浄。その後便座は閉まる。これら作業は全自動で行われる。

前回東京五輪の64年、TOTOは米国で医療用として使用されたウォッシュエアシート」を輸入販売した。当時の洋式と和式トイレの比率は対85で、下水道の普及率も10%を満。一般的に、日本は1度味わうと病みつきになる世界に誇るトイレがある。

「温水洗浄便座の代表ブランド「ウォシュレット」の最新式がある。トイレに入ると、人間は何もせずに近づくと感知器が反応し、便座が開き、便座の暖房も開始。用を足すと、ノズルから水が発射され、おしりを洗う。便座から立ち上がると、脱臭機能を働かせながら便器を洗浄。その後便座は閉まる。これら作業は全自動で行われる。

前回東京五輪の64年、TOTOは米国で医療用として使用されたウォッシュエアシート」を輸入販売した。当時の洋式と和式トイレの比率は対85で、下水道の普及率も10%を満。

「温水洗浄便座の代表ブランド「ウォシュレット」の最新式がある。トイレに入ると、人間は何もせずに近づくと感知器が反応し、便座が開き、便座の暖房も開始。用を足すと、ノズルから水が発射され、おしりを洗う。便座から立ち上がると、脱臭機能を働かせながら便器を洗浄。その後便座は閉まる。これら作業は全自動で行われる。

前回東京五輪の64年、TOTOは米国で医療用として使用されたウォッシュエアシート」を輸入販売した。当時の洋式と和式トイレの比率は対85で、下水道の普及率も10%を満。一般的に、日本は1度味わうと病みつきになる世界に誇るトイレがある